

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立田辺高等学校	中山 浩樹
学校所在地		
〒 646 -0024 和歌山県田辺市学園 1 番 7 1 号 tel 0739 (22) 1880 fax 0739 (22)0636		
担当者名		担当教科
大濱 新		地理歴史科
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は明治 29 年に創立された和歌山県第二尋常中学校（明治 34 年に和歌山県立田辺中学校と改称）を母胎とし、今年度 122 年目となる。「合理的な思考」「豊かな情操」「積極的な行動」を教育目標とし、21 世紀に入って力強く、積極的に、心豊かに生きていく力の育成に努めている。現在は普通科と自然科学科（田辺中学校からの接続）の 2 学科で、生徒は文武両道を目指し、勉強と部活動に励んでいる。</p> <p>2014 年からスーパーグローバルハイスクールアソシエーション校、2015 年には OECD イノベーションスクール、2017 年からはユネスコスクールとして、世界遺産の地にある高等学校として「地域」学習と国際理解を結びつけた学習を展開している。また、学習をより効果的に行うために、外部機関の協力により、講師派遣や現地学習を行っている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 全学年 960名	10名 職員28名	本校 田辺市周辺 熊野参詣道 等
実践研究テーマ		
世界遺産の有する地域を学び、グローバルな視点を身につけ、世界に発信する		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間 SEEKER（生徒委員会活動）	「地域の課題解決学習～地域からの発信」 「地域を考え、グローバルな視点を持ち行動する」	
〔キーワード〕 世界遺産保全と活用 熊野参詣道（熊野古道） 国際理解 地域創生		
<p>〔目標〕</p> <p>一・二学年の総合学習を通して、それぞれが取り組んだ「地域を知る」・「地域からの発信」をさらに深めるために、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習を通して、世界遺産登録の理由、世界遺産に登録されたことによる地域の変化、文化的景観を守ることが地域を守り、地域創生へと繋がることを理解させる。また、急増するインバウンドの状況を理解し、自分たちに身近な「熊野」が国内外から高い評価を受けていることを理解し、この地域に誇りを持つ人材を育てる。</p> <p>また、ユネスコスクールとして、世界遺産等を通して「国際理解」をし、ユネスコの目標である「国際平和」に貢献できるための幅広い知識やグローバルな視点を育成する。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 15 時間（「総合学習での講演及び課題解決学習 10 時間及び次世代育成事業 5 時間」）		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>田辺市生涯学習課 田辺市熊野ツーリズムビューロー 和歌山県商工観光労働労働部観光振興課 和歌山県世界遺産センター等</p>		

実践に関する事項

〔指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	一年次総合学習 一学期：「地域を知る」一学年全員が各自テーマを設定し、総合学習などの時間で、自分たちの地域について調べ学習をし、プレゼンを行う。	田辺市熊野ツーリズムビューローの多田会長による講演などで、この地域が国内外から注目されている点や地域から世界へ発信している事例について学んだ。	総合学習における評価による
2	一年次総合学習 二・三学期：「地域の課題解決学習」「地域を発信する」ことを目的に、防災・世界遺産・熊野古道・紀伊半島の自然等のテーマ設定を行い、ポスターセッションを行う。	グループに分かれて、地域の企業や団体等を訪れ、現地でのヒアリングや調査を実施した。	総合学習における評価による
3	OECD イノベーションスクールとしての海外研修： ナイアガラの滝を有するカナダ、ライヒュノウ島を有するドイツのコンスタンツを訪れ、世界遺産の比較検証を行っている。	ドイツのコンスタンツのベッセンベルク校の高校生と議論することで、ドイツと日本の世界遺産の捉え方・地域貢献に対する考え方の違いや移民問題について学んだ。	
4	次世代育成事業への参加 世界遺産保全活動（参詣道保全活動）を通して、自分たちが高校生として何ができるのかを考える。また、この地域が世界から認められた地域であることを自覚する。	世界遺産センター職員による講義や道普請の指導を通して、世界遺産の意義や保全の大切さを学んだ。	
5	三年次総合学習：三年間の集大成として、和歌山県商工観光労働部（観光振興課）に講師を依頼し、和歌山県の観光誘致戦略を学ぶ。	和歌山県商工観光労働部観光振興課に依頼し、県職員による講演を実施する。今年度は商工観光労働部長による講演を実施した。	総合学習における評価による

〔学習の成果と課題〕

総合学習を通して、地域を学び、生徒が自ら課題解決学習に取り組んでいる。その成果発表として、プレゼンテーションやポスターセッションを行うことで、自分の意見を他人に分かりやすく伝える力・質問に臨機応変に対応する力が身につけている。また、二年次や校外では英語によるプレゼンを行う機会があることから、英語運用能力を身につけることもできている。

地域を学ぶことで、毎年、国内外から多くの人々が訪れるこの地域は、世界中から認められた唯一無二の地域であることに生徒が気付くことができるようになった。この結果、三年生では、他府県への大学進学した後は、和歌山県・地元に戻り就職したいと希望する生徒も多くなっている。

今後、学習を進めるに当たっては、時間的・経済的な制約があるなかで、「どのように現地学習を効率よく行うか」が課題である。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産学習、特に次世代育成事業に参加し、世界遺産の基本・紀伊山地の霊場と参詣道の登録の経緯・文化的景観等を学ぶことで、「熊野地域」の高校生として、「是非、今後も世界遺産の保全と活用に取り組みたい」という生徒の感想がみられた。特に、従来は観光面で世界遺産を取り上げていた生徒も、世界遺産は「人類共通の宝物」であるからこそ、保全することが大切であり、保全することが観光にもつながるということを生徒が気付くことができた。

高校生にとっては聞き慣れない「文化的景観」について学ぶことで、地域の文化やくらしを守ることが文化的景観の維持にも繋がり、地域社会を守ることと世界遺産を守ることが関係していることが理解できたのは大きな成果であった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

ユネスコスクールとして、ユネスコが「国際社会の平和」のために創設され、そのユネスコが193カ国と締結した「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」は、国際平和と深く関わるものであることを生徒に認識させる必要がある。今後は、世界遺産を観光の側面にとらえる生徒が多いことを踏まえ、世界遺産の歴史やユネスコ憲章前文にあるユネスコの精神を今一度、一年次から学習することが必要と考える。

そのために、県世界遺産センター職員等を講師に招き、世界遺産学習を一年次から展開したい。

様式 2

平成29年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

- 1 伏拝王子付近での世界遺産保全活動（道普請）の実施
女子生徒19名で1トンの土入れ作業を行った。センター職員の皆さんが、事前に土嚢袋に土を用意して下さったこともあり、予定通り道普請作業を終えることができた。女子生徒にはきつい作業になるのではと心配もあったが、生徒も積極的に道普請に関わった。作業終了後には、生徒から「自分たちが世界遺産の道を守っていることが実感でき、充実感があった」、「人のために何かをするというボランティア活動ができて大変よかった」、「土入れ作業後にタコで道をならすことも体験できてよかった」などの感想がだされた。



伏拝王子付近の土置き場



保全場所への土入れ作業



保全場所への土入れ作業

- 2 県世界遺産マスターの方の現地学習
私たち田辺高校の卒業生でもある世界遺産マスターの山内先生が案内と説明をして下さった。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が日本で初めて「文化的景観」が評価されて文化遺産として世界遺産に登録されたことなど、詳しく世界遺産の道熊野参詣道（熊野古道）について説明を受けた。参詣道ウォーク・道普請・講義を盛りだくさんであったため、時間が足りず、急ぎ足だったため、「もう少しゆっくりと話をききたかった」と残念がる生徒もいた。



伏拝王子で山内先生から説明を受ける



中辺路と大辺路の合流地点での説明

- 3 世界遺産センター職員の世界遺産講義
世界遺産設立の経緯、世界遺産の種類、紀伊山地の霊場と参詣道の本質、世界遺産の保全と活用等について、世界遺産センターの職員の方から講義を受けた。「自分たちが行った道普請が、世界遺産の保全と活用の一環であることが理解でき、継続した取り組みを実施したい」と申し出る生徒もいた。講義前に熊野古道は本宮や那智、新宮周辺にあると誤解していた生徒も一部いたが、自分たちの学校の近くにも熊野古道があることを知り、参詣道をより身近な存在として捉えることができた。



世界遺産センター榎本先生による世界遺産講座

- 4 次世代育成事業に参加して
田辺高等学校として初めて和歌山県世界遺産協議会の次世代育成事業に参加した。今年度、ユネスコスクールとなり世界遺産を通じた「国際平和」や「国際理解」の学びを深めて行く上で、大変貴重な体験をすることができた。国際理解・英語運用能力の点では、実際に、熊野古道を歩く外国人旅行者にインタビューを実施し、外国人が感じる熊野の魅力を知ることができたことは大変良かった。また、世界遺産保全活動（道普請）を通して、高校生の自分たちが世界遺産を守り、その魅力を発信していくことが大切であると強く意識付けすることができた。今後、ユネスコスクールとして、ユネスコ世界遺産の構成資産である「熊野参詣道（熊野古道）」の保全と活用に継続して取り組んでいきたい。